

口永良部島

火山活動度レベル

火山活動度レベルは、2 (やや活発な火山活動) でした。

概況

火山性地震の発生回数はやや多く、新岳火口の北側の噴気が見られるなど、火山活動はやや活発でした。

噴煙活動の状況

19日と30日に、新岳火口の北側の噴気地帯から白色でごく少量の噴気が高さ10mに上がっているのを観測しました(図1)。

地震・微動活動の状況

火山性地震は日に0～19回で、月回数は170回(2月:234回)とやや多く発生しました(図2)。火山性地震の震源は、新岳火口付近に3個求まりました(図3)。火山性微動は日に0～4回で経過し、月回数は21回(2月:36回)でした(図4)。

上空からの観測結果

2日に海上自衛隊鹿屋航空基地救難飛行隊の協力を得て、上空からの観測を行いました。前回(2004年2月16日)と比べると、新岳火口や火口周辺で温度の高い領域がやや広がり、温度の上昇が認められました(図6)。また、新岳、古岳周辺では多少の噴気の増加が認められるものの、大きな変化はありませんでした。

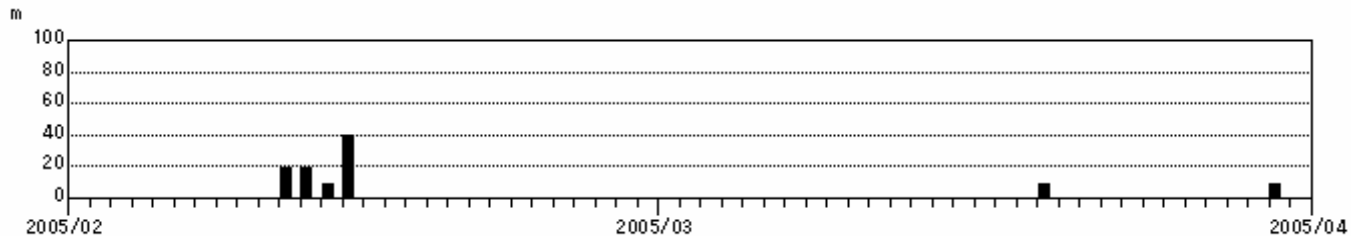


図1 監視カメラの映像と日最高噴煙高度(2005年2月1日～3月31日)

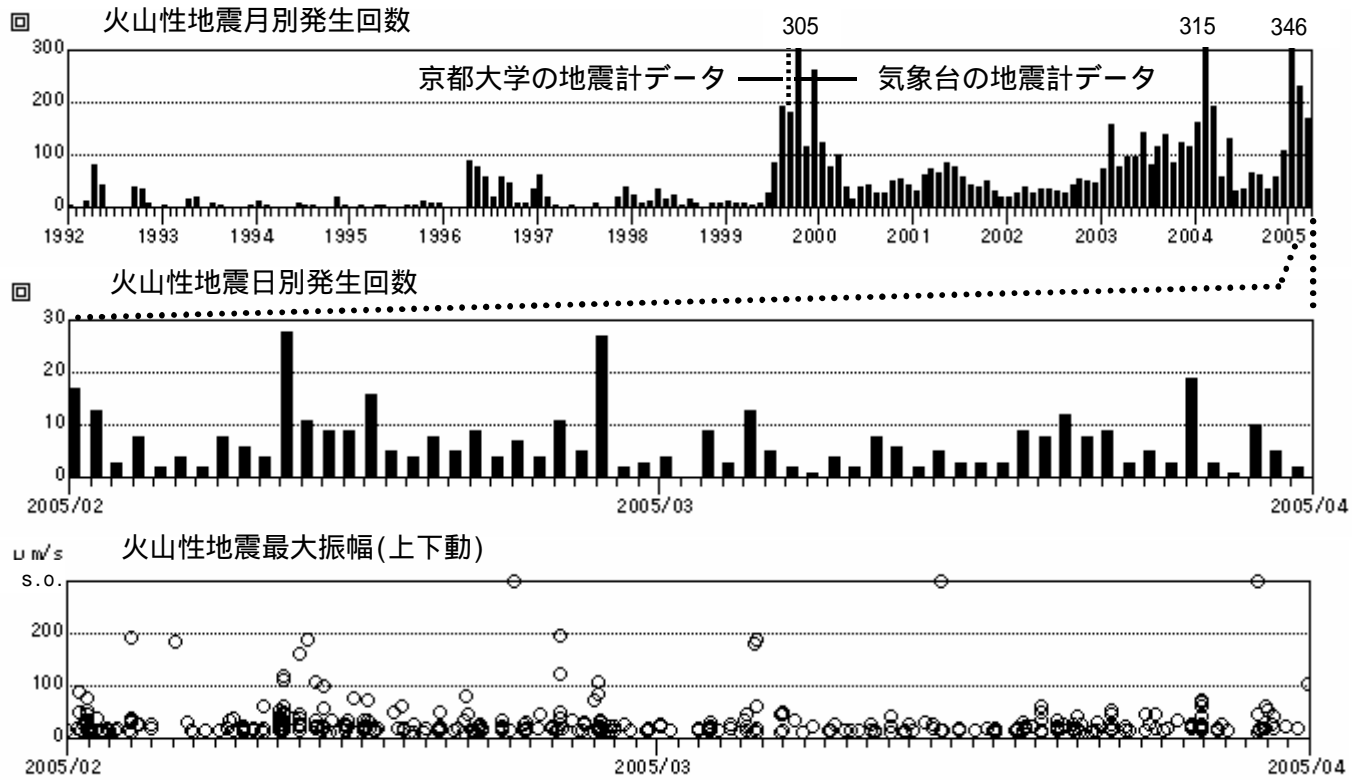


図2 火山性地震活動経過図(1992年1月1日～2005年3月31日)
1999年9月12日までは、京都大学のデータを利用

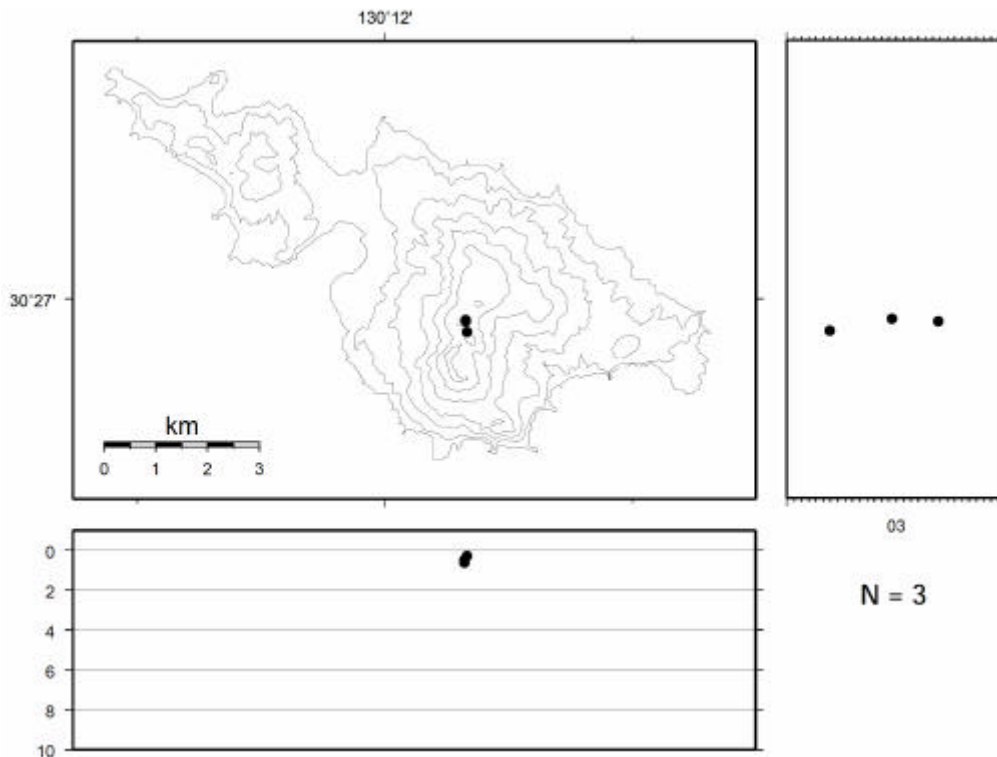


図3 火山性地震の震源分布(2005年3月1～31日)
本資料は、気象庁のデータを用いて作成した。

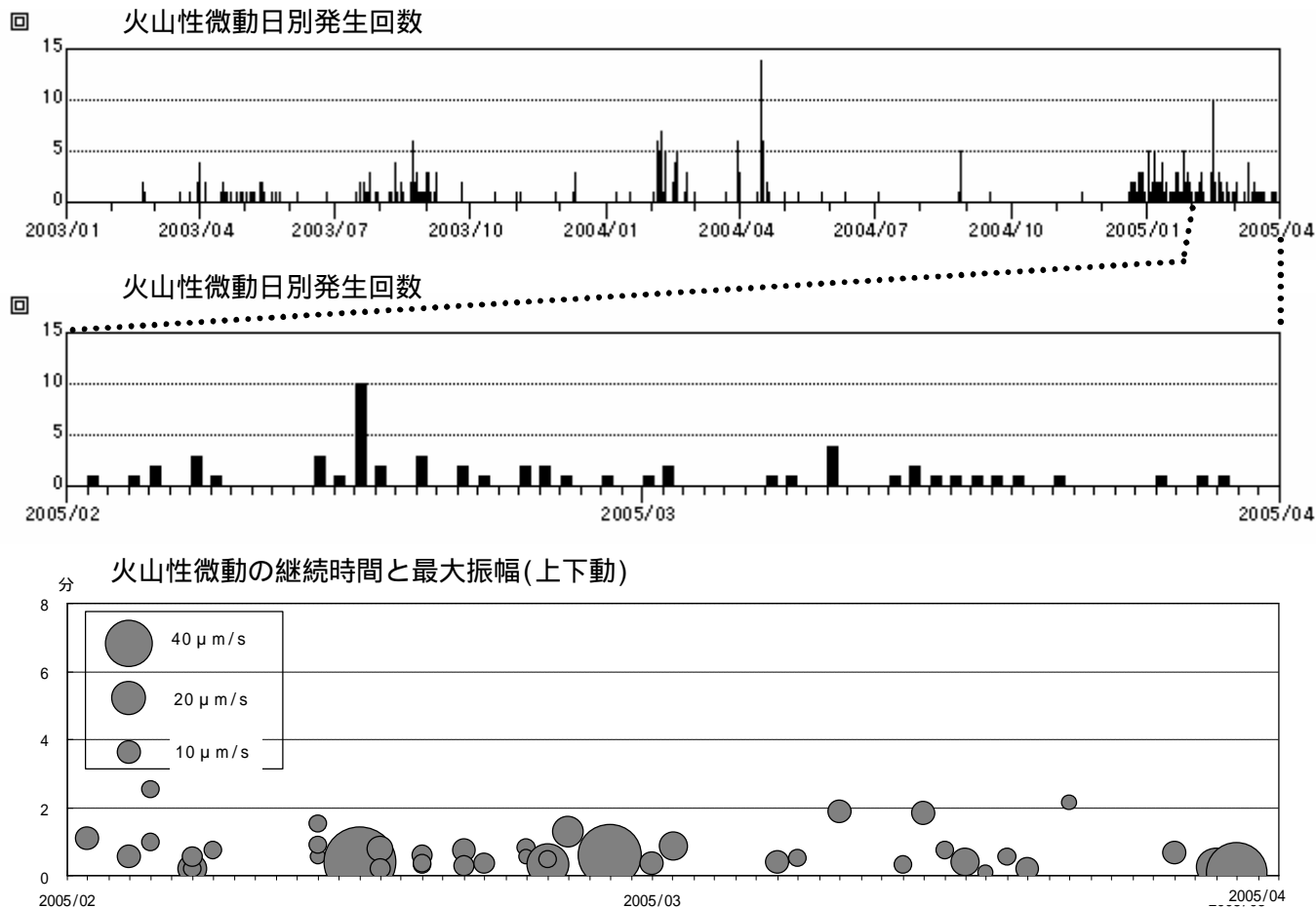


図4 火山性微動活動経過図(2003年1月1日~2005年3月31日)

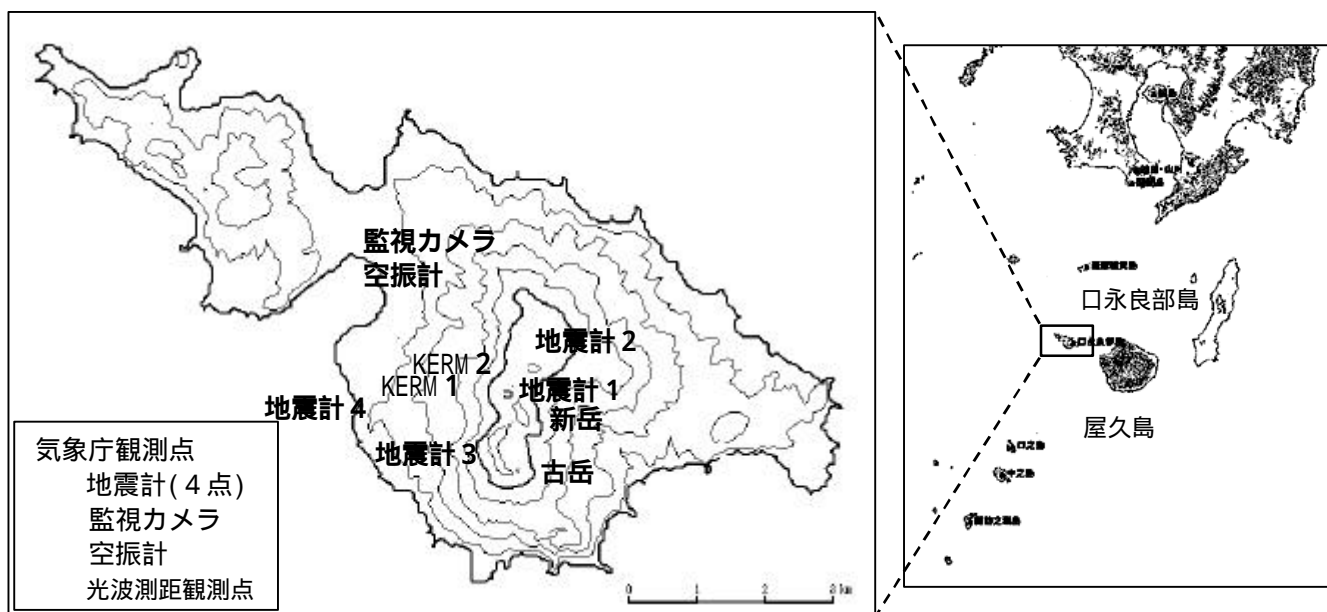
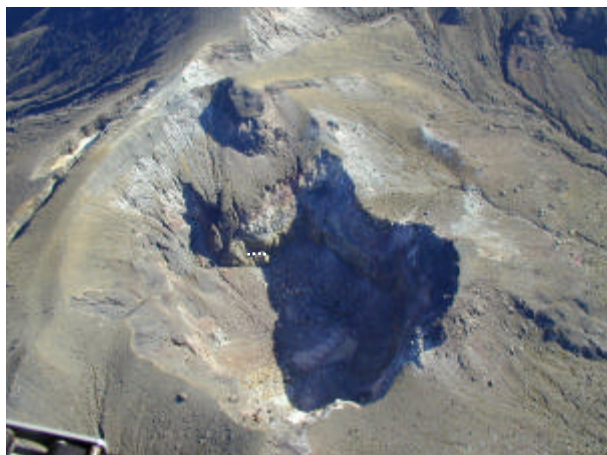
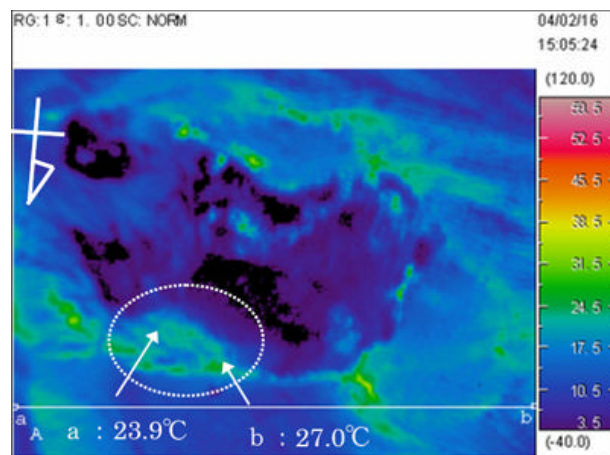


図5 観測点位置図



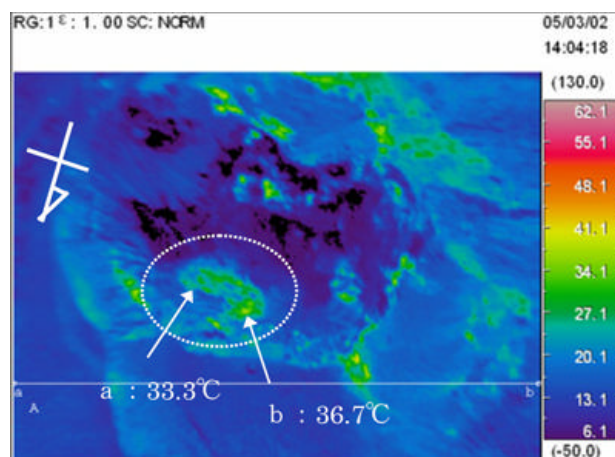
2004 年 2 月 16 日
火口の北方向から撮影



右記の熱映像 数値は測定値



2005 年 3 月 2 日
火口の北東方向から撮影



右記の熱映像 数値は測定値

図 6 火口上空からの観測結果

- ・ 温度異常のない領域を基に補正し、相対的な温度を求めた。
- ・ 前回(2004 年 2 月)と比べ、新岳火口内(楕円部分)で温度の高い領域が広がり、相対的な温度も高くなっていた。
- ・ 火口内のその他の領域及び火口周辺でも相対的な温度が高くなっていた。
(熱映像は赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、大気その他の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある)